

若松区の紹介

概況

若松区は北九州市の北西部に位置し、洞海湾と響灘に囲まれ、東部には古墳が散在するなどその歴史は古く、自然に恵まれたところです。また、環境産業のまちとしてエコタウン事業、次世代エネルギー関連事業などの集積が進んでいます。

さらに、平成30年12月には若戸大橋・若戸トンネルの通行料無料化が実現し、より利便性が向上しました。

これから若松区においては、「産業都市・北九州」の再生と浮揚を担う、大規模かつ重要なプロジェクトが続々と展開され、人・自然・産業が共存するまちへ大きく生まれ変わろうとしています。

- 人口 77,854人 (区別順位 5位 令和6年4月1日現在 北九州市推計人口)
- 世帯数 34,152世帯 (区別順位 5位 令和6年4月1日現在 北九州市推計人口)
- 面積 72.10km² (区別順位 4位 令和6年4月1日現在 北九州市推計人口)
- 高齢化率 33.2% (区別順位 3位 令和6年3月31日現在 「住民基本台帳」)



〈若松南海岸〉

「若松南海岸」はかつて日本一の石炭積出港として栄えた歴史を伝えるとともに景観的にも優れた地域となっており、日本遺産の構成文化財にも認定されています。さらに、令和元年には、洞海湾・若松港の築港に係る6つの施設が土木遺産に認定され、令和4年には若戸大橋が国の重要文化財に指定されました。

文化の面では、芥川賞作家・火野葦平が生誕・活躍した地で、彼の足跡を文学碑や河伯洞（旧居）、火野葦平資料館で偲ぶことができ、多くの文学ファンが訪れています。

生前の葦平が、こよなく愛した高塔山からは、若松の街並みはもとより、若戸大橋、響灘、関門海峡が一望できます。「河童の隠した宝石箱」というキャッチコピーがついた夜景は、無数の宝石を散りばめたような美しさで、平成25年7月「日本夜景遺産®」に認定されました。



〈響灘地区〉

近年、響灘地区においては、循環型社会の構築と環境リサイクル産業の振興を目指す「北九州エコタウン事業」、低炭素・安定・安価なエネルギー供給を目指す「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」、都市と自然の共生を目指す「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業」が展開されています。



〈北九州学術研究都市〉

西部の「北九州学術研究都市」においては、先端科学技術の教育・研究機関との連携が進められ、豊かな未来を築くための知的基盤が整備されています。同時に、良好な住宅地の供給や小学校等の公共施設の整備も進み、総合的なまちづくりも行っています。



〈若松北海岸〉

玄海国定公園に指定されている「若松北海岸」には、市内で唯一の海水浴場があり、沿岸は良好な漁場になっています。また、西日本有数の生産量を誇るキャベツ、ブロッコリー、スイカなどの重要な産地であり、若松潮風キャベツや水切りトマトなど、ブランド化が進んでいるものもあります。



地名の由来

「若松」という地名の由来は、若松恵比須神社の『恵比須神社縁起』に書かれています。

それによると、仲哀天皇（ちゅうあいてんのう）と神功皇后（じんぐうこうごう）が熊襲を征伐したとき、洞の海に霊石を見つけ、これを神体としてまつり、神社の海辺に小松を植えました。

このとき、お供をしていた武内宿禰（たけのうちのすくね）が、「海原（うなばら）の滄暝（そうめい）たる、松の青々たる、我が心も若し」（意味：松が一面にみずみずしい緑色をしていて、その向こうに青々とした海が広がっているのを見ていると私の心も若やいでまいります）と言ったことから、「若松」の地名になったと伝えられています。

また、他に若い松が多い所だったので、この名がおこったという説もあります。

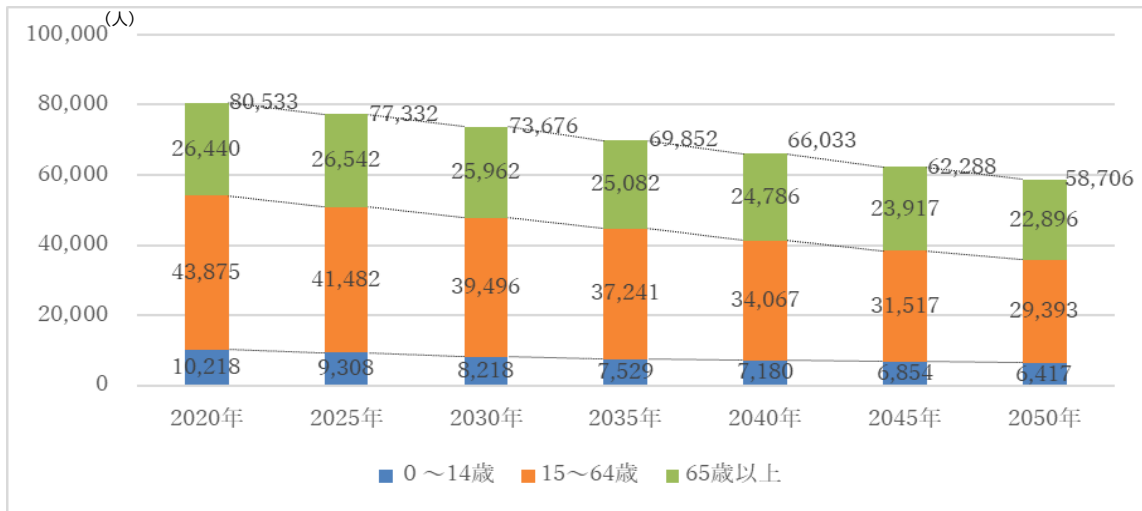
沿革

室町期から見える地名 筑前国御牧（みまき）郡（遠賀郡）のうち（「若松市史」より）

慶長5（1600）年	黒田長政、筑前国52万3千石拝領 遠賀郡のうち
慶長7（1602）年	長政入国後初の検地、小石村、若松村、藤木村、二島村、小竹村、畠田村、頓田村、安屋村、大鳥居村、小敷村、高須村、乙丸村の検地帳ができる
明治4（1871）年	廃藩置県により福岡県遠賀郡第10区に属する
明治22（1889）年	市制・町村制施行により遠賀郡若松村、石峰村、江川村、洞北（くききた）村が発足
明治24（1891）年	若松村が町制施行して若松町となる
明治39（1906）年	石峰村を若松町に合併（編入）
明治41（1908）年	江川、洞北両村合併して島郷村となる
大正3（1914）年	若松町が市制施行して若松市となる
昭和6（1931）年	島郷村を若松市に合併（編入）
昭和38（1963）年	5市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）合併。北九州市若松区となる

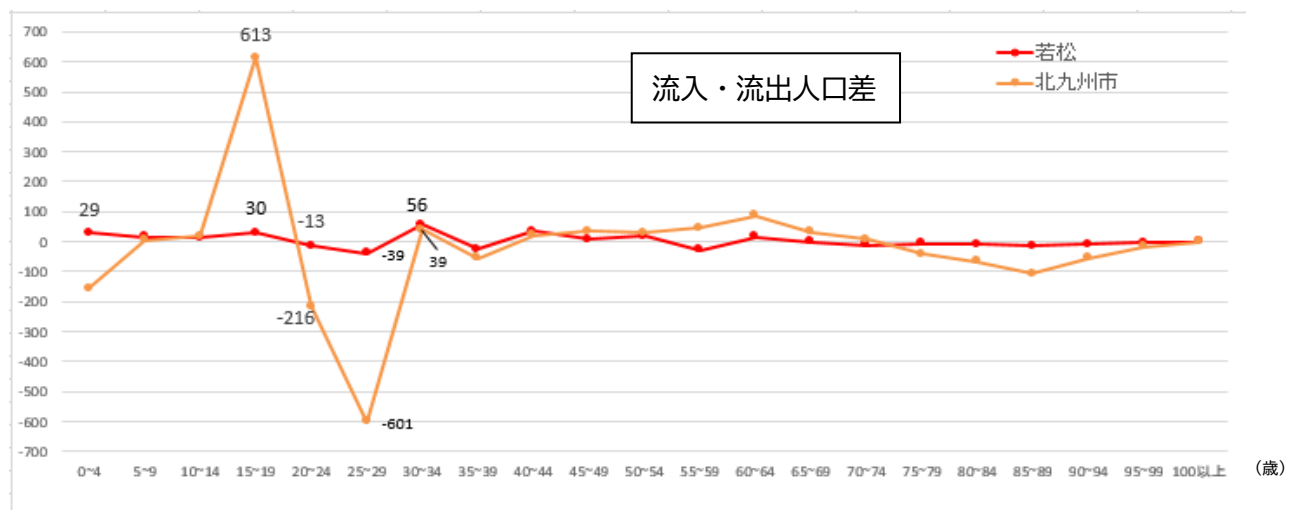
若松区の特徴

◆少子高齢化と人口の減少が進行しています



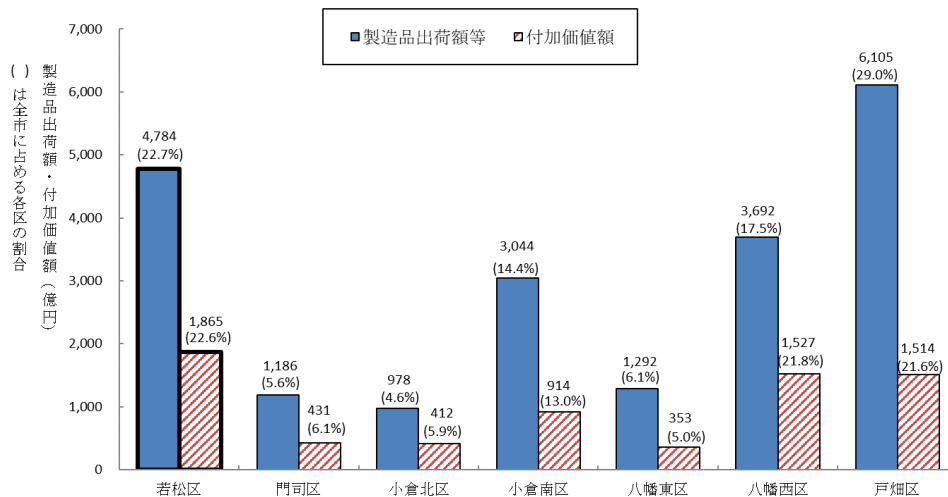
国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（令和5年（2023）年推計）より

◆人口が進学等では増加せず、子育て世代が増える傾向にあります。



福岡県「人口移動調査」統計表（令和4年1月～12月）

◆製造品出荷額・付加価値額ともに全市に占める割合が高くなっています



資料：令和3年経済センサス-活動調査 製造業（地域別統計表データ）